

# 循環型社会の構築について ～ 国際的な取組の概要～

1. 国際環境協力に関する計画・答申・構想
2. 国際的な循環型社会構築に向けた考え方  
と我が国の役割
3. 国際循環型社会構築に向けた工程表

平成18年12月27日

環境省 廃棄物・リサイクル対策部

# 1 . 国際環境協力に関する計画・答申・構想

## 第3次環境基本計画(H18.4.7閣議決定)

### (重点分野政策プログラム)

#### 国際的な枠組みやルール形成等の国際的取組の推進

- ・地球、地域、二国間レベルでの環境に関する世界的枠組みづくりやルール形成等への主導的な貢献
- ・地球環境の保全と持続可能な開発を考えた環境管理の有効な仕組みを東アジア地域を中心に普及
- ・開発途上地域の環境保全のための支援、国際環境研究の推進
- ・多様な主体との連携の確保と情報や人材の基盤整備

## 持続可能な社会の構築に向けた日中環境協力のあり方(H18年8月、環境省検討会報告)

### (協力の理念)

- ・中国の責任ある行動に期待するとともに、国際社会共通の課題である環境問題の解決のために、ともに協力していく「協働(パートナーシップ)型」での協力を進めていくべき。
- ・環境問題への取組は、我が国の国益にかなうだけでなく、地球益にかなうもの。
- ・中国の環境悪化は、アジア及び世界の環境破壊につながることから、その解決は中国の第一義的責任であると同時に、アジア及び世界で指導的役割を自認している先進国日本の役割。

### 環境コンパクト(環境協力合意)に基づく戦略的環境協力の推進

## 今後の国際協力の在り方について (平成17年7月、中央環境審議会答申)

### (国際環境協力の目標)

地球環境の保全と持続可能な開発を考えた環境管理の仕組みを改善

### (今後の取組の方向)

- 世界的な枠組みづくりへの戦略的な関与
  - ・世界的な枠組みづくりに積極的に関与(国際機関への人材の派遣等)
  - 地域における環境協力の枠組みづくり
  - ・政策対話を通じ、相手国のニーズを把握。戦略的な環境協力を推進
  - 多様な主体による国際環境協力
  - ・我が国の地方公共団体/NGO/企業の経験・ノウハウの活用
  - 国際環境協力実施体制の強化
  - ・国内基盤(情報、人材、資金)の整備、体制の強化
- 5年後を目途に戦略の見直し

## アジア環境行動パートナーシップ構想 (H18.5.10 環境省より 経済財政諮問会議に提出)

日本でのG8サミット(2008年)も視野に入れ、「情報」「技術」「人づくり」「ライフスタイル」の4つの視点でアジア大の政策協調と経済のグリーン化を目指す。

東アジアにおける6つのアクションの一つとして、3R資源グローバル戦略の実施

## 2 . 国際的な循環型社会構築に向けた考え方と我が国の役割

中央環境審議会「国際循環型社会形成と環境保全に関する専門委員会」報告（平成18年2月）

### 平成18年版循環型社会白書（平成18年5月30日 閣議決定）

#### 課題

- ・ 廃棄物の発生が増大と質の多様化による不適正な処理
- ・ 循環資源の越境移動の活発化による国内外の廃棄物処理・リサイクルシステムへの影響
- ・ 資源価格の高騰

#### 基本的な考え方

国際的な循環型社会を構築するために、  
まず各国の国内で循環型社会を構築し、廃棄物の不法な輸出入を防止する取組を充実、強化、その上で環境負荷の低減に資する形で、循環資源の輸出入の円滑化を図る ことが必要。  
この際に、循環資源の持つ環境負荷の程度を表す有害性と、経済的価値を表す有価性に着目し、それぞれの性質に応じた的確な対応を推進。

#### 我が国の役割

##### 各国の循環利用・処分の能力向上への貢献

政策対話を通じた各国の問題解決への協力、3R推進のための計画策定/ビジョン策定支援、3Rに関する人材育成と組織整備

##### 廃棄物の不法な輸出入を防止する取組

循環資源の国際移動の把握・分析の高度化、規制対象物品の明確化、トレーサビリティの向上、不法輸出入防止のネットワークの充実、我が国の知的財産権の保護 等

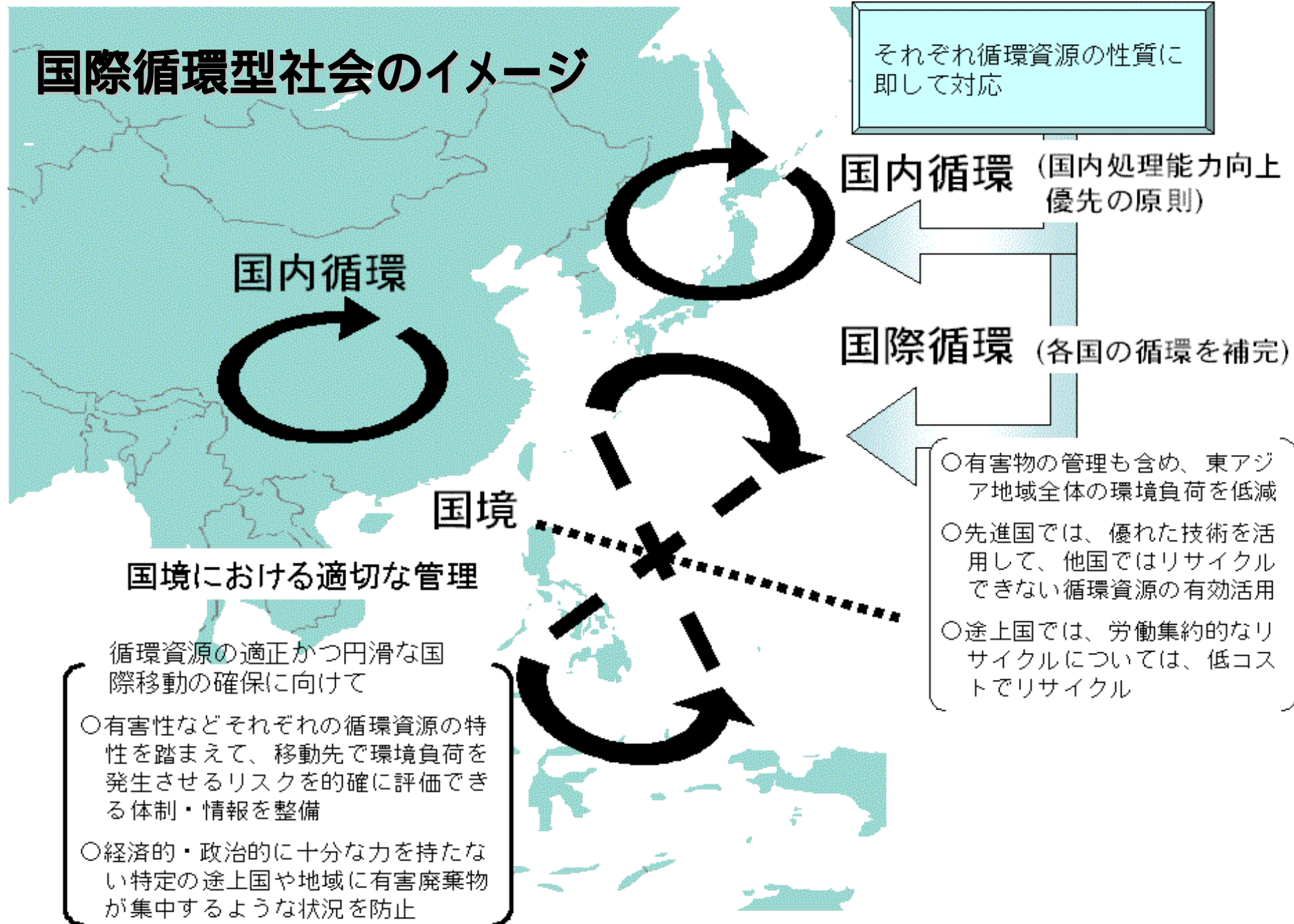
##### 循環資源の輸出入の円滑化のための取組

アジア共通の有害廃棄物のデータベースの構築、環境保全効果が確認された再製造物品等に対する貿易障壁の低減方策の検討

⇒ **経済成長戦略大綱に工程表を記載**

⇒ **東アジア地域において、より効率的な政策実施や安定的な経済活動を担保していくためのアジアンス<sup>3</sup>タンドードに向けて各国が共同していくことが重要**

# 国際的な循環型社会の構築に当たっての基本的な考え方



## 経済成長戦略大綱における3Rの記述(1)

### 第1 国際競争力の強化

#### 1. 我が国の国際競争力の強化

##### (9) 環境と経済の両立を実現する産業育成・事業展開の加速化

##### 3R技術・システムによる資源生産性向上プラン

我が国の資源生産性(GDP / 天然資源投入量)を2010年までに約39万円/トンに向上させること等を目指し、先進的な3R技術の開発や3Rシステムの整備、循環型の地域づくり等を進めるとともに、資源生産性等に関する指標や政策目標設定手法の国際統合化、循環資源の適正な輸出入のための国際的な取組の充実等により、3Rを国際推進し、資源のより効果的・効率的な利用による持続可能な産業発展を促進する。

#### 「経済成長戦略大綱 工程表」より

第1 国際競争力の強化	1 我が国の国際競争力の強化	項目	短期(2006年度内)	中期(~2008年度内)	長期(~2015年度)
			3R技術・システムによる資源生産性向上プラン	<p>3R推進のための様々な技術開発支援を推進する。</p> <p>各種リサイクル法の評価・検討を行うなど、リサイクル関連制度の高度化を推進する。</p> <p>地域において廃棄物から資源とエネルギーを回収・利用するシステムの整備を支援する。</p>	<p>2008年3月を目途に、新たな循環型社会形成推進基本計画を策定する。</p>

## 経済成長戦略大綱における 3 R の記述(2)

### 3. 資源・エネルギー政策の戦略的展開

#### (2) 資源外交、環境エネルギー協力等の総合的な強化

##### アジア環境・エネルギー協力戦略

エネルギー需要が急増し、気候変動問題等への対応も遅れつつあるアジア諸国に対し、国別アクションプランの策定とそれに基づく省エネルギー制度構築のための人材支援などの省エネルギー協力、太陽光発電(ソーラー)等の普及やバイオ燃料の持続可能な開発・普及等の新エネルギー協力、石炭のクリーン利用の促進、アジアにおける効果的な備蓄スキームの構築、クールビズの取組のアジアへの発信、アジア共同の環境危機情報システムの形成、3 R 技術・システムの展開、これらに係る人材の養成など、環境・エネルギー協力を展開する。

#### 「経済成長戦略大綱 工程表」より

第1 国際競争力の強化	3 資源・エネルギー政策の戦略的展開	項目	短期(2006年度内)	中期(~2008年度内)	長期(~2015年度)	
			アジア環境・エネルギー協力戦略	(我が国の先進的な3 R 技術・システムの展開)  2006年秋頃に、東アジアの産業界、学界、行政等の専門家が連携し、最先端の3 R 技術・システムの情報交換のための研究ネットワークを形成する。  2006年秋頃に、3 R イニシアティブの一層の推進に向け、アジア諸国を中心に、生ごみの処理などの具体的な課題に対応するための国際会議を開催する。	(我が国の先進的な3 R 技術・システムの展開)  2008年を目途に、アジア開発銀行(ADB)や国連環境計画(UNEP)と連携し、アジアを中心とした3 R 技術・システムの情報拠点(ナレッジ・ハブ)を構築する。  2007年のベトナムを始め、アジアにおいて、3 R 推進のための計画策定やプロジェクト等への支援を推進する。	(我が国の先進的な3 R 技術・システムの展開)  3 R 技術・システムの移転促進の国際的な枠組みの充実を図り、先進的な技術・システムの研究開発やその東アジアへの普及を推進する。  2012年頃までに、東アジアでの循環型社会の構築に向けた基本的な考え方や目標を定めた「東アジア循環型社会ビジョン」を策定する。

# 3. 国際循環型社会構築に向けた今後の戦略

